

平成29年度 弘前大学教員免許状更新講習 開設講習一覧

- 必修領域は、全教員（教諭、養護教諭、栄養教諭）を対象とする講習です。
- 選択必修領域と選択領域は、「対象職種」が『教諭』、『養護教諭』、『栄養教諭』に限定されます。ご自身の対象となる講習を受講してください。
- 選択領域の、「教科」、「主な受講対象者」欄は、講習の内容をより明確にお伝えするためのものです。学校種や担当教科が異なっても受講できます。
- 講習料は、講習時間数が6時間の講習は6,000円、12時間の講習は12,000円になります。
- 平成28年度に受講された講習と同一の講習を今年度も受講した場合は1講習としての取扱いとなるため、免許更新手続きの際に履修時間数が不足することになります。申込みの際には講習名・講習内容を十分ご確認ください。

夏季講習

【必修領域】「全ての受講者が受講する領域」

講習番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	受講人数
A01	教育の新動向	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）」「子どもの生活の変化をふまえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	福島 裕敏(教育研究院教育・芸術領域教授) 松本 大(教育研究院教育・芸術領域准教授) 吉中 淳(教育研究院教育・芸術領域教授) 田名場 忍(教育研究院教育・芸術領域教授) 安達 知郎(教育研究院教育・芸術領域講師) 松田 侑子(教育研究院教育・芸術領域講師) 中山 忠政(教育研究院社会科学領域講師) 増田 貴人(教育研究院教育・芸術領域准教授) 天海 丈久(教育研究院教育・芸術領域准教授) 平岡 森一(教育学部特命教授) 小玉 有子(弘前医療福祉大学保健学部教授)	青森県弘前市	平成29年8月9日	6時間	全教員	200人
A02				青森県青森市	平成29年8月9日			200人
A03				青森県十和田市	平成29年8月10日			100人
A04				青森県弘前市	平成29年8月17日			200人

【選択必修領域】「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」

講習番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	職務経験等	受講人数
B01	教育課程・学校経営	「学習指導要領の改訂の動向等」および「様々な問題に対する組織的対応の必要性」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	森本 洋介(教育研究院教育・芸術領域講師) 三上 雅生(教育研究院教育・芸術領域教授) 大坪 正一(教育研究院教育・芸術領域教授) 石戸谷 繁(東北女子大学准教授)	青森県十和田市	平成29年8月9日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	特定しない	100人
B02	教育課程・学校経営	「学習指導要領の改訂の動向等」および「様々な問題に対する組織的対応の必要性」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	森本 洋介(教育研究院教育・芸術領域講師) 三上 雅生(教育研究院教育・芸術領域教授) 大坪 正一(教育研究院教育・芸術領域教授) 石戸谷 繁(東北女子大学准教授)	青森県弘前市	平成29年8月10日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	特定しない	200人

B03	教育相談①	「教育相談」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。具体的には、以下の通り。 1) 非行少年の推移と現状、非行少年の理解と対応のための理論の習得を目指す 2) 非行にいたる児童生徒の理解および対応についての演習を行い、体験的に教育相談の理解や経験を深めることを目指す。	田名場 忍(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県青森市	平成29年8月10日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 教諭、養護教諭、栄養教諭	特定しない	50人
B04	教育相談②	「教育相談」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。具体的には、以下の通り。 1) 教育相談に限らず、生徒指導、道徳、総合の時間、学級活動など、さまざまな場面での応用が試みられている心理教育についての理解を深めることを目指す。	安達 知郎(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県青森市	平成29年8月10日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	特定しない	50人
B05	キャリア教育の理論と実践	現代の雇用情勢や若者の職業意識を踏まえながら、学校現場で求められている進路指導やキャリア教育のあり方について理解を深める。また、具体的な教育方法や援助についての知識やスキルについても習得することを旨とする。	吉中 淳(教育研究院教育・芸術領域教授) 松田 侑子(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県青森市	平成29年8月10日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	特定しない	100人
B06	アクティブラーニング	アクティブラーニングについての理論的な理解を行うとともに、アクティブラーニングの手法をワークショップの形式で体験し、実践的にも理解することを目指す。また、アクティブラーニングの学びをどのように評価するか、従来の学習指導にどのように組み込むかについても学ぶ。	森本 洋介(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月10日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	特定しない	50人
B07	教育相談①	「教育相談」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。具体的には、以下の通り。 1) 非行少年の推移と現状、非行少年の理解と対応のための理論の習得を目指す 2) 非行にいたる児童生徒の理解および対応についての演習を行い、体験的に教育相談の理解や経験を深めることを目指す。	田名場 忍(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月18日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 教諭、養護教諭、栄養教諭	特定しない	50人
B08	教育相談②	「教育相談」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。具体的には、以下の通り。 1) 教育相談に限らず、生徒指導、道徳、総合の時間、学級活動など、さまざまな場面での応用が試みられている心理教育についての理解を深めることを目指す。	安達 知郎(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月18日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	特定しない	50人
B09	キャリア教育の理論と実践	現代の雇用情勢や若者の職業意識を踏まえながら、学校現場で求められている進路指導やキャリア教育のあり方について理解を深める。また、具体的な教育方法や援助についての知識やスキルについても習得することを旨とする。	吉中 淳(教育研究院教育・芸術領域教授) 松田 侑子(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月18日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	特定しない	100人
B10	小学校英語教育	小学校での英語カリキュラムにおける基本的な知識からクラスの進め方まで紹介します。内容は、(1)カリキュラム全体を構成する方法(2)Classroom Englishを紹介(3)Hi, friends の活用(4)英語のインプットを増やすための物語の利用。受講者は英語の技能は必要ありません。物語の利用は英語に自信がない方に適しています。	ラウシュ・アンソニー(教育研究院社会科学領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月18日	6時間	教諭	小学校教諭	特定しない	50人
B11	ICTによる英語教育	英語の授業に活用できるICT(情報通信技術)の様々な事例を取り上げ、それを実際の授業に取り入れる方法を具体的に検討する。特に、インターネット上に公開されているリソースやオープンソース・ソフトウェアなど、特殊な機材やライセンス料を必要としないものを中心に取り上げる。	内海 淳(教育研究院人文科学領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月18日	6時間	教諭	小学校・中学校・高等学校 英語科教諭	特定しない	40人

【選択領域】 「受講者が任意に選択して受講する領域」

講習番号	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C04	国語	文学教育のこれから	国語科教育の動向を踏まえながら、これからの文学教育のありかたについて考えていくために必要な知識や技能について学ぶ。また教科書の教材を実際に用いながら、講義・演習を通して理解を深めていく。	鈴木 愛理(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年7月22日	6時間	教諭	中高国語科教員	50人
C29	国語	言語運用能力;国語表現法と「やさしい日本語」	災害時の外国人に伝える情報の表現法について研究している。外国人にも伝えねばならない重要な情報を抜き出し、日本在住1年でも理解する日本語に言い換える。これにより日本に住む9割以上の外国人が適切な避難行動を取れるようになる。言い換えた日本語はまた、多言語に翻訳しても誤解のない表現となる。講習では研究成果に基づき、教員が国語教育に活用でき、また生徒の国語表現能力も育つよう「的確な情報選択の方法」と「国語表現能力」「相手意識」「生きる力を育てるための言語運用能力」について実践に基づいて講義する。	佐藤 和之(教育研究院人文科学領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月5日	6時間	教諭	中学校・高等学校国語科教諭	20人
C33	国語	国語科の国語学的分析	「五十音図で『ん』が飛び出ているのはなぜか」「昔の人は濁点や句読点がないのになぜ困らなかったのか」「濁点の付かない仮名に無理矢理濁点を付けたらどんな音になるのか」「よい和歌とは何か」等々、ちょっと国語が得意な小学生が抱く素朴な(そしてその多くが高校を卒業しても解決されない)疑問に対して、国語学的視点を導入することの有効性を示します。	平井 吾門(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月6日	6時間	教諭	小学校・中学校・高等学校国語科教諭	40人
C49	国語	日本語のなかの漢字	日本語が現在のように出来上がってくるまでには紆余曲折ありました。そのプロセスにおいて、中国からやってきた「漢字」が日本語に与えた影響は甚大です。この講習では、日本語における漢字の位置と意味について、噛んで含めるように丁寧に解説いたします。小学生に漢字を教えることの難しさに悩んでいる先生の参考になるような講習にしたいとおもっています。	山田 史生(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月23日	6時間	教諭	小学校教諭・中高国語科教諭	100人
C17	社会・地歴・公民・商業	管理会計学の動向と方向性を考える	管理会計学について、担当講師の主要研究分野である品質コスト・マネジメントや戦略的コスト・マネジメントを中心とした史的展開や、最新の研究動向について、講義を行います。各トピックスに存在する経済的・社会的背景からの要請が与えた影響や、時代の変遷と共に管理会計ツールとしてどのような変化が生じたのか理解することを目的とします。	小杉 雅俊(教育研究院社会科学領域准教授)	青森県弘前市	平成29年7月30日	6時間	教諭	中・高等学校(商業・社会)教諭	20人
C35	社会・地歴・公民・商業	現代社会をとらえるためのデータ活用	さらなる情報化社会の進展にともない、社会科教育にも情報を適切に収集し、多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断し、適切に表現する能力と態度を育てることが求められています。近年は官庁統計を中心とした情報へのアクセス環境も整備されてきました。本講義では、そうした統計データを活用し、事実を認識し、わかりやすく表現するための方法について、Excelを用いた演習も行いながら考えていきます。	高瀬 雅弘(教育研究院教育・芸術領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月7日	6時間	教諭	小学校教諭、中学校社会科教諭、高校公民科教諭	30人
C02	算数・数学・情報	透視図法と地図の幾何学	透視図法はルネサンス期のフィレンツェの建築家ブルネレスキによって発明され、アルベルティ、ピエロ・デラ・フランチェスカ、レオナルド・ダ・ビンチなどの建築家や画家たちによってその基礎づけが成されました。一方、画像の作り方の例として地図投影法があります。本講習では透視図法と地図の幾何学について、歴史的な視点と作図演習を交えながら学びます。(定規とコンパスを持参ください)。	榊 真(教育研究院安全システム工学領域教授)	青森県弘前市	平成29年7月16日	6時間	教諭	中学・高等学校数学教諭	50人
C14	算数・数学・情報	算数・数学的活動とその体験	算数的活動・数学的活動の意義を検討し、小学校算数、中学校数学で扱う教材やその背景について学ぶとともに、活動を取り入れた授業のあり方について考えることをねらいとします。活動を取り入れた教材研究を体験する時間をできるだけ設定する予定です。	中野 博之(教育研究院教育・芸術領域教授) 田中 義久(教育研究院教育・芸術領域准教授)	青森県青森市	平成29年7月29日	6時間	教諭	小学教諭・中学校数学科教諭	50人

講習番号	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C18	算数・数学・情報	【選択】考える力を伸ばす図形教材の研究	数学の学習指導において、問題の答えを出して終わりにするのではなく、そこから新たな課題を見出して探求しようとする姿勢が大切である。具体的には、別の解決方法を考えたり、条件を見直すことで問題の構造を明らかにしたり、その条件をかえてみることで発展的に考えたりすることである。こうした活動を通して、考えることの楽しさを味わえる図形教材の研究について考えていく。	山本 稔(教育研究院安全システム工学領域准教授) 田中 義久(教育研究院教育・芸術領域准教授)	青森県青森市	平成29年7月30日	6時間	教諭	中学校・高等学校数学科教諭	30人
C50	算数・数学・情報	中学高校教員のための数学講座—記号論理入門	数学の問題を解くときや証明を書くときに誰もがあまり意識せずに使っている論理というものも数学的に眺めてみます。論理を代数の計算のように扱おうとしたブルールや概念記法なる図式を用いて算術の体系を打ち立てようとしたフレーゲの仕事をかえり、記号論理学の入り口へと案内します。論理の基本の形式を知ること、普段の数学の答案や証明をよりよく書くことに役立ちます。	丹原 大介(教育研究院安全システム工学領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月23日	6時間	教諭	中学校・高等学校教諭(数学)	50人
C01	理科	微生物の観察と実験	微生物はふだんわれわれの目には触れないが、生態系においても生物の進化においても欠かせない存在である。本講習では、そのような微生物を教材として活用することをめざし、身近に存在するさまざまな微生物を顕微鏡で観察しながらその取り扱い方を学ぶ。またそれらを用いて、細胞の理解につながるような実験を行う。微生物としては乳酸菌、土壌カビ、酵母、アオミドロ(緑藻)、ミドリゾウリムシ(原生動物)などを扱う予定。	岩井 草介(教育研究院教育・芸術領域准教授)	青森県弘前市	平成29年7月15日	6時間	教諭	中学校・高等学校理科教諭	20人
C05	理科	物理教材から見た理科教育	小学校や中学校の電磁気領域で活用可能な教具の製作を行い、それらを基に理科教育に対する考察を深める。製作する教具の一つは、電流の流れる方向によって異なる色のダイオードが点灯する電流方向指示器であり、電流の流れる方向を視覚的に捉えさせることができる教具である。もう一つは、豆電球を1個接続したとき、2個直列や並列に接続したそれぞれの場合について振れ幅に違いの出る、磁石とコイルで製作した検流計である。	東 徹(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年7月22日	6時間	教諭	小学校教諭、中学校理科教諭	20人
C06	理科	化学実験(中学校・高等学校)	本講習では中学校理科もしくは高等学校化学(一部物理と生物)で扱われる「光」や「色」に関連した実験を行い、物質の性質を科学的に理解することを目的とする。pHと指示薬の色、炎色反応、めっきなどを予定している。	島田 透(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年7月22日	6時間	教諭	中学校・高等学校理科教諭および特別支援教諭	20人
C09	理科	思考を導く理科教育	具体的な教材をとおして、理科教育の方法と理論をベースに、児童・生徒を思考させるという観点から講義を展開する。前半では環境教育に関する理論と教材の紹介を行い、演習をおして児童・生徒の思考について考える。後半はそれに引き続くとともに、教科や科目を融合した教材を取り扱い、それについての思考を考える。	佐藤 崇之(教育研究院教育・芸術領域准教授)	青森県弘前市	平成29年7月23日	6時間	教諭	小学校教諭、中学校・高等学校理科教諭	30人
C15	理科	アクティブ・ラーニングに向けたマイクロスケール実験—粒子分野(化学)の実験を中心に①	次期学習指導要領で導入される「アクティブ・ラーニング」への活用も期待されている。特別支援教育でも注目の「マイクロスケール実験」について、その概念と具体的な方法について実験を通して考える。小学校理科の新学習指導要領「粒子分野(化学)」の中からは第6学年「水溶液の性質」を、中学校や高等学校では、電池や電気分解を中心に、実験を通して指導法を考える。	長南 幸安(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県むつ市	平成29年7月29日	6時間	教諭	特別支援教諭、小学校教諭および中学校・高等学校理科教諭	25人
C19	理科	アクティブ・ラーニングに向けたマイクロスケール実験—粒子分野(化学)の実験を中心に②	次期学習指導要領で導入される「アクティブ・ラーニング」への活用も期待されている。特別支援教育でも注目の「マイクロスケール実験」について、その概念と具体的な方法について実験を通して考える。小学校理科からは「だ液の性質」を、中学校や高等学校では、物質の分離方法や金属陽イオンの分析を中心に、実験を通して指導法を考える。	長南 幸安(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県八戸市	平成29年7月31日	6時間	教諭	特別支援教諭、小学校教諭および中学校・高等学校理科教諭	25人
C34	理科	山地河川の動物観察	白神山地の津軽十二湖には、湖沼と河川が連続する水系があり、ここでは水温や水質が段階的に大きく変化します。この実習では、津軽十二湖の複数の河川で環境と水生動物群集の組成を比較し、動物群集の成立要因を環境と関連づけて考察します。水生昆虫類のほか、カイメン類やプランナリア類、甲殻類など多様な動物が見られるため、分類の基礎を身につけることもねらいのひとつです。	大高 明史(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県深浦町	平成29年8月6日	6時間	教諭	小、中、高等学校理科教諭	15人

講習番号	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C36	理科	遺伝子の構造と発現調節	地球上の全ての生物に共通の性質は遺伝物質であるDNAあるいはRNAの半保存的複製にある。本講習では、遺伝子の分子構造、DNAの複製、RNAの転写、タンパク質合成等に関する分子生物学の基礎を概説する。また、各種生物の遺伝情報を用いた研究の一端を紹介する。	赤田 辰治(教育研究院農学・生命科学領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月7日	6時間	教諭	高校・中学理科教諭	20人
C39	理科	理科を苦手とする教員のための小学校物理実験	小学校理科・物理分野に関する教科書に記載されている実験を実際に行いながら、実験を行う際の留意点・注意点を再確認し、その実験のもつ物理的理解を深める。具体的には、3学年「物と重さ」「磁石の性質」「電気の通り道」、4学年「空気と水の性質」「金属、水、空気と温度」「電気の働き」、5学年「振り子の運動」「電流の働き」、6学年「てこの規則性」「電気の利用」の中から3・4単元を取り上げ、それらに関する内容を取り扱う。	山本 逸郎(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月19日	6時間	教諭	小学校教諭	24人
C44	理科	物質科学研究の基礎と最新の話題	化学の当該研究分野の基礎的事項を講義するとともに、研究背景も踏まえながら、最先端の化学研究の例について紹介します。 ①有機合成化学:「機能分子化学」を中心に:機能性を示す有機分子の合成化学(グラフェン、カーボンナノチューブなどの炭素系材料)について、研究背景も踏まえながら、最先端の有機合成研究について紹介します。 ②無機化学:「固体化学」を中心に:光学特性、力学特性、電気的性質、磁性などで優れた機能を有する多種多様な酸化物について、その機能と構造の相関を探る最先端の固体材料研究を紹介します。	伊東 俊司(教育研究院機能創成科学領域教授) 増野 敦信(教育研究院機能創成科学領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月22日	6時間	教諭	中・高の理科教諭及び小学校で理科を専門とする教諭	20人
C22	音楽	声楽曲の読譜と表現	「楽譜をどう読むか」によって大きく変化する音楽を、具体的にオペラのスコアを用いた実践例に触れながら考察します。その後、練習曲や教科書に掲載されている楽曲で実習し、受講者の読譜力と表現力の向上を目指します。	杉原 かおり(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月4日	6時間	教諭	中学校・高等学校教諭(音楽)	10人
C30	音楽	音楽科の学習指導	「最初のオンガクを探る」をテーマとする。小・中学校音楽科のカリキュラム(創作を基盤とした歌唱、器楽、鑑賞へのアプローチ)について、サウンドスケープとサウンド・エデュケーションをキーワードとして、具体的な授業実践例を提示しつつ考察する。また、音楽の背景となる文化についても、日本の伝統芸能などに触れつつ、考察していく。	今田 匡彦(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月5日	6時間	教諭	小、中、特別支援学校教諭(音楽)	30人
C32	音楽	音楽情報の収集と活用	インターネット上のウェブサイト、さまざまなサービスや図書館・資料館のレファレンスサービスを利用して最新かつ専門的な音楽情報を収集する手法、また、あつめた資料や情報を整理・処理する手順を紹介します。まず、PC操作や情報検索の一般的・基礎的な技術を踏まえた上で、音源の編集、楽譜制作などを実習します。さらに、西洋音楽だけでなく世界中の、あるいは郷土の音楽資料にアクセスし、実際の授業に活用する方法を考察する予定です。	朝山 奈津子(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月5日～平成29年8月6日	12時間	教諭	中学校・高等学校音楽科教諭	30人
C43	美術	コンピューターグラフィックスの基礎	2次元コンピューターの基礎を学びます。ベクター系とラスター系の違いや、それぞれの表現方法の違いなどを演習を通して学習します。最後はそれぞれの方法を総合して作品を制作し評価します。作品サイズはA4とします。2日間の講義で、1日目は午前中に講義し、午後は操作を主体に演習します。2日目は午前、午後を通して作品制作を行います。この作品を評価課題とします。これらの作業を通して、美術におけるコンピューター作品制作の考察方法も併せて学修します。	石川 善朗(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月21日～平成29年8月22日	12時間	教諭	小・中学校、高校教諭(美術)	12人
C03	保健体育	器械運動の補助方法を学ぶ	学校体育における器械運動種目の中から、マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動の3種類の技について、その指導方法や補助方法を学びます。各種目の技についてその運動構造を理解し、実際に行ないます。簡単な補助技術を身につけ、受講者同士で実際に補助活動を行います。 ※実践を交えた演習形式で行います。	清水 紀人(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年7月17日	6時間	教諭	幼・小・中・高等学校・特別支援学校教諭(保健体育)	30人

講習番号	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C12	保健体育	基本から学ぶ柔道	中学校、高校の正課体育柔道の指導力向上を目的に実習します。指導要領では基本動作とともに「攻防を展開する」ことが技能の目標として示されていますが、現場の先生方には安全上の不安を抱かれているのではないのでしょうか。本講習では、「正しい技術が安全性を向上させる」という理念のもとに、指導者自身のスキルアップを図っていきます。また、講習の内容は正課体育担当者だけでなく部活動の指導者にも有益と思います。	高橋 俊哉(教育研究院教育・芸術領域准教授)	青森県弘前市	平成29年7月28日	6時間	教諭	全教諭(主に保健体育教諭、部活動指導教諭)	25人
C16	保健体育	体育を苦手と感じる教員の授業組み立て法	なぜ、体育授業を苦手と感じているのか。どうしたら価値ある授業を提供できるのか。45分間の授業と単元における「体育授業の組立て方」を学ぶ内容です。具体的には以下の5つです。 ①小学校の体育授業が目指すものと、最新の体育科教育の動向 ②安全と学習規律の確立法 ③意図的な手立てと、柔軟な対応の仕方 ④1時間レベルと単元レベルの授業組み立て法と、指導案作成のポイント ⑤授業評価の仕方と活用	上野 秀人(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年7月29日	6時間	教諭	小学校教諭	20人
C23	看護	学校教育におけるメンタルヘルス	現代社会における対人関係の特徴や心身の問題を学校教育に焦点をあて、下記の内容について教授する。 (1)思春期・青年期におけるボディ・イメージとメンタルヘルスについて述べ、健康的な生活のための支援方法について考察する。(西沢) (2)自己の対人関係の在り方についての振り返りを行いながらメンタルヘルスの向上を目指す。(川添)	西沢 義子(教育研究院保健科学領域教授) 川添 郁夫(教育研究院保健科学領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月4日	6時間	教諭 養護教諭	小・中学校・高等学校教諭・養護教諭	32人
C45	看護	成人期から高齢期のメンタルヘルス	中高年のうつや自殺が増えているが、本講座では成人期と高齢期に焦点をあて、人間生涯発達の心理的な側面に関する内容を教授する。 (1)人間の心の健康について、他者と自己の2つの視点から考察することによって、他者理解と自己洞察を深め、メンタルヘルスの理解を目指す。(則包) (2)超高齢社会における高齢者をめぐる現状を概観し、当事者とサポート側の双方のメンタルヘルスの理解を目指す。(木立)	木立 るり子(教育研究院保健科学領域教授) 則包 和也(教育研究院保健科学領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月22日	6時間	教諭 養護教諭	幼稚園教諭、小・中・高教諭(保健・家庭)、養護教諭、特別支援学校教諭	30人
C46	看護	生活習慣と健康	近年の保健医療において重要課題である生活習慣病についてとりあげ教授します。また、学校生活や家庭生活におけるこどもの生活習慣や感染予防行動に関することを教授します。 ○生活習慣病と予防(漆坂) ○学校生活・家庭生活における生活習慣と感染予防(高橋) ○肥満と運動療法(井瀧)	井瀧 千恵子(教育研究院保健科学領域教授) 高橋 徹(教育研究院保健科学領域教授) 漆坂 真弓(教育研究院保健科学領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月22日	6時間	教諭 養護教諭	全教諭、養護教諭	30人
C47	看護	放射線の基礎と放射線看護	身の回りの放射線等の放射線に関する基礎や放射線事故・災害、その際の看護活動、医療に使われる放射線、放射線看護について学びます。 ○放射線の基礎(細川) ○放射線事故・災害時の看護活動(野戸) ○放射線治療の日常生活への影響(小倉)	細川 洋一郎(教育研究院保健科学領域教授) 野戸 結花(教育研究院保健科学領域教授) 小倉 能理子(教育研究院保健科学領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月22日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	小・中・高等学校教諭、養護教諭、栄養教諭	40人
C07	技術・工業	マイコンを使ったものづくり	マイコンを使ったものづくりの実習を行います。ハードウェアは、ブレッドボードにマイコンやその他の部品を取り付け、ジャンパ線で配線して製作します。実習内容は、LEDの点滅、明るさや温度の数字表示、電子オルゴール、希望に応じてモータの制御など。 Windows/パソコンを持参のこと。	小山 智史(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年7月22日～平成29年7月23日	12時間	教諭	中学校教諭(技術・理科)、高等学校教諭(工業・理科)	10人

講習番号	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C24	技術・工業	藍の生葉染と乾燥葉染め	津軽地方では藍染めが古くから行われてきたが、産業として行われてきた藍染めをそのまま学校教育の現場で実践することは難しい。そこで学校教育現場で活用が可能な、藍の生葉染と乾燥葉染、さらに紅花との重ね染め(二藍(ふたあい))を紹介し、実習する。またアイの栽培方法やその文化史について紹介する。実習で染色した繊維・アイの種子・苗をお持ち帰りいただく。作業着・ビニル手袋・苗の持ち帰り袋を持参。	勝川 健三(教育研究院教育・芸術領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月4日	6時間	教諭	小(生活科)・中学校(技術科)教諭、特支教諭	10人
C25	技術・工業	医用機器開発と理数系教育	工学分野において進展する医用システム開発の取組について、オムニバスで解説します。弘前大学における医工連携研究開発の状況、光を使ったバイオ医療応用や生体計測に基づく筋負担軽減機器、超音波による骨密度計測、など取組の概要を高校までの学習と関連付けて紹介するとともに、高校生の進路計画や学習意欲向上の指導に資する話題として提供し、生徒の理数分野への進学促進に役立っています。	花田 修賢(教育研究院安全システム工学領域准教授) 齊藤 玄敏(教育研究院安全システム工学領域准教授) 吉成 哲(教育研究院安全システム工学領域教授) 稲田 シュンコ(教育研究院安全システム工学領域助教)	青森県弘前市	平成29年8月4日	6時間	教諭	工業高校教諭、理数系教科担当中学校・高校教諭	20人
C31	技術・工業	マイコンで学ぶ計測と制御	マイコン(ARDUINO)を使ってデータの出入力の実験を行います。いろいろなセンサ(光、音、温度、放射線など)からの信号を処理・表示できます。単純な直流モータからサーボモータまでの制御もできます。これら(計測と制御)を組みあわせればメカトロニクスシステムが作れます。実際の移動ロボットシステム等について最近の研究成果を紹介します。	竹田 年延(教育研究院安全システム工学領域助教) 長井 力(教育研究院安全システム工学領域助教)	青森県弘前市	平成29年8月5日	6時間	教諭	工業高校教諭および中学校、高等学校の理科及び技術の教諭	10人
C37	技術・工業	実験とシミュレーションで見る身の回りの流れの不思議	私たちの生活と密接に関わっている水や空気の流れを実験とコンピューターシミュレーションによって可視化し、現象を理解することに重点を置きます。対象とする現象は、カーブボール、乗り物の抵抗、風や雨の音、炭酸飲料水の泡など、流体力学を学んでいない小・中・高校生にも興味深い内容になっています。身の回りの流体力学を学ぶことにより、理数系科目の教育において発展的課題を提供することにつながり、学生の学習意欲の向上に役立ちます。	城田 農(教育研究院安全システム工学領域准教授) 矢野 哲也(教育研究院安全システム工学領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月7日	6時間	教諭	理数系教科担当小学校・中学校・高校教諭、工業高校教諭	10人
C40	技術・工業	人と関わるメカトロニクス技術	計測制御技術は、産業界の他、医療分野でも実用化されていますが、そこには数学物理を基礎とした機械工学や電子情報工学のほか、人間の特性を扱う解剖学や心理学など、多様な分野の知識が必要とされます。本講習では、それらの知識を融合して開発された救急車用アクティブベッド、投球時の関節負荷を予測する投球ロボット、日常生活の運動量を正確に測定するカロリーカウンターの3つのテーマについて、研究内容を解説します。	佐川 貢一(教育研究院安全システム工学領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月21日	6時間	教諭	中学校・高等学校理科・技術家庭教諭、工業高校教諭	10人
C48	技術・工業	レーザーを使った光学の基礎と応用	「光」は、産業はもちろんのこと、医療や農業など様々な分野において利用されています。よって、本講習では、光や、光を操る光学部品の基礎について解説し、レーザーを使った実験を体験することで、弘前大学で行われている光学関連の取組の概要を、高校までの学習と関連付けて紹介するとともに、高校生の進路計画や学習意欲向上の指導に資する話題として提供し、生徒の理数分野への進学促進に役立っています。	花田 修賢(教育研究院安全システム工学領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月22日	6時間	教諭	工業高校教諭、理数系教科担当中学校・高校教諭	20人
C08	家庭	家庭生活の変容と授業づくり	小・中・高等学校における家庭科学習の現状を踏まえ、家庭生活の変容について把握する。また家庭科学習における各学習領域の基礎・基本を押さえると共に、発展的な内容も取り扱い、授業作りに結びつけることを目指す。	日景 弥生(教育研究院教育・芸術領域教授) 北原 啓司(教育研究院戦略的融合領域教授) 安川 あけみ(教育研究院教育・芸術領域教授) 李 秀眞(教育研究院社会科学領域准教授) 飯野 祐樹(教育研究院教育・芸術領域講師) 小野 恭子(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年7月22日～平成29年7月23日	12時間	教諭	小学校教諭、中・高等学校教諭(家庭科)	20人

講習番号	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C26	英語	学ぶ英語と楽しむ英語—大学での実践例から	英語の運用・実践についてどのような授業方法があり得るか、いくつかのパターンを実際に経験することで教育上より効果的かつやってみて楽しい講義を参加者とともに考えてみたいと思います。自ら実践することでどんな難しさがあるか、あるいはどういった点は面白いかといったことについて参加者の中で話し合い、現場で生かせる講義方法を探してみます。	南 修平(教育研究院人文科学領域准教授)	青森県弘前市	平成29年8月4日	6時間	教諭	中学校・高等学校英語教諭	30人
C52	英語	授業に生かす英語教育学	様々な指導法や学習活動が提案され続ける英語授業について、①歴史的な流れを振り返る。②それぞれのねらいと長所や短所を考察する。③演習として実際に授業を組み立ててみる。以上の3つのことを通して考察します。また、技能統合やアクティブラーニングについて、参加者全体でのディスカッションを通して理解を深めます。	佐藤 剛(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月26日	6時間	教諭	中学校・高等学校英語教諭	30人
C20	養護教諭	養護教諭実践の再確認とこれから(A)	学校全体で子ども達の様々な健康・安全上の問題を解決するために、専門職としての養護教諭に求められる以下のようなテーマを取り上げます。 1. 疾患を有する児童生徒の管理と支援: 学校で気をつけて欲しい児童生徒の病気 2. 子どものからだをみる—フィジカルアセスメントの実際—: (1)養護教諭が身に付けたいフィジカルアセスメント(概論)、(2)身体の不調を訴える子どものフィジカルアセスメント(事例検討)、(3)まとめ	田中 完(教育研究院臨床医学領域教授) 葛西 敦子(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月2日	6時間	養護教諭	養護教諭	24人
C21	養護教諭	養護教諭実践の再確認とこれから(B)	学校全体で子ども達や教職員の様々な健康・安全上の問題を解決するために、専門職としての養護教諭に求められる以下のようなテーマを取り上げる。 ○様々な健康課題の基本となる近年の子どもの発育が環境からどのように影響をうけているのか考える。 ○最近の子どもの性の実態を講述し、今後の性教育のあり方を考える。 ○衛生管理者になる可能性のある養護教諭が、労働安全衛生法による教職員の健康管理を考える ○保健指導に使える簡単な実験を経験してみる	小玉 正志(教育研究院教育・芸術領域教授) 太田 誠耕(教育研究院教育・芸術領域教授)	青森県弘前市	平成29年8月3日	6時間	養護教諭	養護教諭	24人
C27	養護教諭	養護教諭実践の再確認とこれから(C)	学校全体で児童生徒らの様々な健康・安全上の問題を解決するため、専門職としての養護教諭に求められる以下のようなテーマを取り上げる。 ○いじめ・不登校・保健室登校などの現状と課題や、実践上の困難感について分析し、考察する。 ○いじめ・不登校・保健室登校の問題解決に向けた養護教諭の対応の在り方について、多面的に理解し、考察する。 ○いじめに関する心の回復と養護教諭の関わり方について理解し、考察する。	小林 央美(教育研究院教育・芸術領域教授) 原 郁水(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月4日	6時間	養護教諭	養護教諭	24人
C28	特別支援	特別支援学校等における指導の実際	本時では、特別支援学校における実践・教諭の授業力向上を企図している。具体的には、主として弘前大学教育学部附属特別支援学校で取り組んでいる研究及び事業(スポーツ推進、キャリア・就労支援、文化・造形芸術活動)等を取り上げながら、現在特別支援学校に求められている実践的課題について考察する。	増田 貴人(教育研究院教育・芸術領域准教授) 天海 丈久(教育研究院教育・芸術領域准教授) 奈良岡 恵美子(教育学部附属特別支援学校教諭、教育学部非常勤講師) 相馬 力(教育学部附属特別支援学校教諭、教育学部非常勤講師) 岡田 一也(教育学部附属特別支援学校小学部主事、教育学部非常勤講師) 森 修子(教育学部附属特別支援学校高等部主事、教育学部非常勤講師) 谷地 美奈子(教育学部附属特別支援学校教諭、教育学部非常勤講師)	青森県弘前市	平成29年8月4日	6時間	教諭 養護教諭	特別支援学校の教諭・養護教諭	30人
C41	特別支援	インクルーシブ教育システムと合理的配慮～その基礎的な理解のために～	最近よく耳にする「インクルーシブ教育システム」や「合理的配慮」ですが、ご自分の言葉で説明することはできますか？ 本講義は、「インクルーシブ教育システム」や「合理的配慮」について、障害者権利条約の条文(一部、英文を含む)を逐次参照・解説しながら、その基礎的な理解を目指します。「合理的配慮」と「一般の支援」の違いや、「インクルーシブ教育システム」は何を目指しているのか、などについて取り上げる予定です。	中山 忠政(教育研究院社会科学領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月21日	6時間	教諭 養護教諭	教諭(校種を問わず)・養護教諭	40人

講習番号	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C38	特別活動	特別活動(中学校・高等学校編)	人のつながりの中で、問題行動を解決し、自ら学びに向かう児童生徒を育てるには、特別活動の再確認が強く求められている。個に焦点が集まりすぎた現状を見直し、スキルやメソッドに頼り過ぎない集団作りを、実践的な演習を入れて考察を深める。学力向上を後押しし、いじめや不登校の起きにくい学級、授業集団、学年・学校集団を育てる四本の柱を軸に展開する。	山科 實(教育学部特任助教、教職キャリア支援コーディネーター)	青森県弘前市	平成29年8月7日	6時間	教諭	中学校・高等学校教諭	50人
C42	特別活動	特別活動(小学校編)	人のつながりの中で、問題行動を解決し、自ら学びに向かう児童生徒を育てるには、特別活動の再確認が強く求められている。個に焦点が集まりすぎた現状を見直し、スキルやメソッドに頼り過ぎない集団作りを、実践的な演習を入れて考察を深める。学力向上を後押しし、いじめや不登校の起きにくい学級、授業集団、学年・学校集団を育てる四本の柱を軸に展開する。	山科 實(教育学部特任助教、教職キャリア支援コーディネーター) 角野 君代(教育学部特任助教、教職キャリア支援コーディネーター)	青森県弘前市	平成29年8月21日	6時間	教諭	小学校教諭	50人
C51	幼児教育	乳幼児保育の現在と課題	本時においては、乳幼児保育の現状と課題についての諸議論を紹介する。なかでも、発達障害や“気になる”子どもをめぐる保育や、保幼小連携・接続をはじめとする歴史・制度的課題、諸外国の保育との比較をとおして考える「保育の質」の検討について主に触れ、今後の保育・幼児期の教育の展望を考察する。保育・幼児期の教育をテーマにする関係上、主な受講対象者は幼保連携型認定こども園保育教諭や幼稚園教諭(特別支援学校幼稚園を含む)等、保育・幼児期の教育に直接関係する者を念頭におく。	増田 貴人(教育研究院教育・芸術領域准教授) 武内 裕明(教育研究院教育・芸術領域准教授) 飯野 祐樹(教育研究院教育・芸術領域講師)	青森県弘前市	平成29年8月23日	6時間	教諭	主に保育教諭、幼稚園教諭	50人
C10	栄養教諭	からだのリズムと食育	どんな食べ物を、いつ・どのように食べればよいかは食育の基本である。また、地域の特性や環境に適応した生活の充実が心身の健康に深く関与する。本講座では、健康づくりのための食習慣や暮らしの知識を深め、食育の新しい方向性を追究する。	西田 由香(東北女子大学 家政学部教授) 加藤 秀夫(東北女子大学 家政学部長教授) 葛西 美樹(東北女子大学 家政学部教授) 花田 裕(東北女子大学 家政学部講師)	青森県弘前市	平成29年7月26日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	40人
C11	栄養教諭	おいしさの科学と健康	食育基本法が制定され、食育が盛んに行われている今、栄養教諭を始めとする教師の役割も大きなものとなっている。人は適切に食べることによって、健康が保持され増進される。では、健康が保持される「おいしさ」とは何であろうか。食べ物と健康の関係について考え、今日の食事は将来の健康につながっているという意識を持ちたい。そこで、この講座では実験や実技を交えて調理に取り組み、知識や技術を固めて食の問題の専門家として食育に取り組む力を養いたい。	今村 麻里子(東北女子大学家政学部准教授) 妹尾 良子(東北女子大学家政学部准教授)	青森県弘前市	平成29年7月27日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	栄養教諭、小・中・高等学校教諭および養護教諭で食育に関心のある方	30人
C13	栄養教諭	実験で学ぶ食育とスポーツ栄養	食育は知識の習得だけでなく、実践に結びつけることが大切である。この講座では、食べものが身体でどのように利用されるか、身近な食材を用いた実験を通して食の科学を学び、実践力の基礎をつくる食育を考える。 また、栄養教諭の個別栄養相談で対応が求められているスポーツ栄養について、競技力を高める食事の取り方を学び、個々の児童生徒の健康づくりを支える食の指導を考える。	前田 朝美(東北女子大学家政学部講師) 出口 佳奈絵(東北女子大学家政学部助教)	青森県弘前市	平成29年7月28日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	30人